

教育長賞

水と人と食物

不二聖心女子学院中学校

一年 ^{なぐら}名倉 さん

五月の田んぼの水面には、山の線やみかんの木の影、夕焼けが映っている。これからいねへと成長する苗を、誰かが植えている光景が目にかぶであろう。まさに田植えの時期だ。秋が来れば、黄金色に輝く、立派ないねが風にゆれる。私たちが毎日当たり前のように食べている、お米。このお米は水がなければ育つことはない。

私の祖父母の家には田んぼがある。私はそこで、毎年田植えをしている。とはいっても、ほとんど祖父が機械で植えた田んぼのはじっこに数本の苗を植えるだけの、すぐに終わる田植えだ。こんな簡単な田植えだが、くつ下をはいて泥んこの田んぼに入り苗を植えるため、泥がなかなか足がぬけない。時間が経つと、くつ下に泥が入り重くなる。足をぬき、前に進もうとすると、何度も転びそうになり、手に泥がつき、挙句の果てには手も足も泥まみれになる。

田んぼにはアメンボやオタマジャクシなどの虫がうじゃうじゃいる。私は虫が苦手だ。しかしこの虫たちは、いねの成長をじゃまする害虫を退治してくれる。そしてこれらは水がなければ生きていくことができない。田んぼと、その場所で生きる虫と水。この三つはどれか一つでも欠けるとお米が育たなくなってしまうのだ。

泥まみれになった私の手足を洗う場所は、田んぼのあ

ぜ沿いに流れる水路だ。その水路の水は、泥のなまあた
たかい田んぼの中とは異なり、ひんやりとしている。こ
の水が私たちがふ段食べているお米を育ててくれている
のだ。これは農業用水といい、水道水とはちがひ、農作
物を育てるためのお水だ。この水路の水は、いったいど
こから来ているのだろうか。

水は、川やダムから来ている。先人たちが、川やダム
から引いた水が、地域全体の用水路に流れる。そして、
その用水路からさらに引いた水が、祖母の田んぼの水
路など、地域の農作物を育てている畑や田んぼにたどり
着くのだと親から聞いた。地域全体で使われている用水
路は、先人のたぐさんの努力のおかげでいま、こうして
農作物を作ることができているのだ。そしてこの用水路
に流れる水も、自然のめぐみそのものだ。この水がなけ
れば祖父母の地域の農作物は育つことはない。この用水
路は、先人たちの思いを受けつぎ、今も地域の人によつ
て守られている。

また、祖父母の家にはみかんの木も植えられている。
みかんは、お米ほど多くの水を使わなくても育つ。しか
し、あまりにもかわいてしまうと、農業用水をかけて育
たせると父が教えてくれた。ここでも、水は活やくして
いるのだ。水はたぐさんの場面で、農作物や人を支えて

いる。

私たちは、当たり前のようにお米などの食べ物を食べ
て育ち、生きている。そのお米のいねも、同じ地で育っ
ているみかんも、すべて水があるから育ち、私たちがそ
れらを食べることができているのだ。水がなければ、お
米は育たず、私たちが食べることもできない。それぐら
い水は人間と、そして食べ物と密接な関係なのだ。この
関係をこわしてしまうことになれば、人は、そして生き
物は、生きることができなくなってしまう。来年も、そ
の先もずっと、この田んぼの水面に映る自然を見ていた
いし、守り続けたいのだ。そのためには水は必要なので
ある。